

第1回 第5期障がい福祉計画策定専門部会 議事録

日 時：平成29年4月11日（火） 午後6時30分～8時00分

場 所：北見市 まちきた大通ビル7階 H会議室

出席者：策定専門部会委員・・・岩間委員、三浦委員、斉藤委員、石澤委員、伊藤委員、天羽委員、渡部委員、村上委員、渡辺委員、阿部委員、高橋委員

(事務局) 保健福祉部大栄部長、吉田参与、土井次長、障がい福祉課水落課長、子ども支援課桑島課長、子ども総合支援センター高橋センター長、障がい福祉課佐藤係長、竹中係長、三輪係長、近藤、羽田、日野、子ども総合支援センター 片桐係長、熊谷係長、障がい者相談支援センターほっと 舟山相談員

欠席者：白幡委員、工藤委員

会議次第

1. 開 会 (委員・事務局自己紹介)

2. 座長選出 三浦委員選出

3. 報告事項

- (1) 第2期北見市障がい者計画及び第4期北見市障がい福祉計画について
事務局より説明、第2期北見市障がい者計画 P4.41.42、第4期北見市障がい福祉計画 P30～
- (2) 第5期北見市障がい福祉計画及び第1回北見市障がい児福祉計画の策定について
事務局より説明 児童福祉法の一部改正について、資料2-1 主な見直しポイントについて
- (3) 北見市障がい福祉計画策定専門部会スケジュールについて
事務局より説明 報告、サービス支給量超過の際の対応等について

4. その他質疑応答

主な内容

- (委員) 計画の実際のところ意図する目的等はどうか、たとえば就労支援を一例とすると、一般就労や移行支援から就労支援へ下げていくべきなのか
- (事務局) 計画は国の言っているベースを前提に作っていくよう考えているが、無理なものは議論の上変えていく想定。そのために皆様の意見交換が重要となるためお願いしたい。就労支援の部分も本人の力量によるところなので一番いいところで留まるよう、下げる想定ではない。
- (座長) ネットワークや一部の話にとどまらず、全体を通して様々な意見については検討しており、市の予算の見込み次第、という問題もあり、出来たらいいね、とは話しているところ。
- (委員) 北見市は合併によりとても大きくなったが、事業所は1箇所が良いのか。

- (事務局) 常呂自治区には1箇所確保済み。ただしこちらは人材確保が問題となっている。常呂の方が網走まで通い、事故に遭った等も聞いている。需要や参入できる事業所があるのか、という点も含め困難なところ。留辺蘂はある程度安定が見られる。
- (委員) 医療や発達支援について心配がある。個別相談についてはなかなか受けてくれない、適切な施設に辿り着けず、施設等を転々とする事例が多くある。具体的な方向性はないのだろうか。
- (事務局) 同じ意見はあり、どこかで議論できる場があれば、と考えたことがある。市町村単位での範疇を超える問題がある。実際に道の事業として動いて、専門の研修会を広く募ったこともあったが、集まりが少なかった。生まれたときから繋がる病院といったところが大きい。発達障害を専門とする医師自体も不足の状況。発達障害専門にて有名医師の一人には、診断は全てではない、皆で療育することが大切と言った者もある通り、1つの団体では無理であって、皆でスクラムを組んでいく必要があると考える。
- (委員) 幼少よりずっと支援してきた子も中学卒業を機に、支援しにくくなる状況があると感じている。18歳～23歳くらいの時期が一番困難に思える。アスペルガーでも手帳もなしに就職を乗り越えねばならず、一般の企業に勤めるか否かといったところか。就労可能者をどう増やしていくべきか、との問題も出てくる。アスペルガー等発達障害についてもっと理解が深まるよう説明が必要と考える。中学時代は教育委員会に働きかけることで支援が可能であったが、高校となると、学校の各々の考えがあり介入しにくい。また生涯全般を通しての支援の在り方については、65歳問題について言及したい。障がい者でも65歳到達によりもれなく施設が変更となる、という問題は一般に聞くが、北見市でもそのような実情はあるのか。
- (事務局) 65歳の壁は在宅でも施設入居者でも抱えているところ。施設によるが、例としてある事業所は65歳を過ぎてもずっと居ることができている。有料老人ホームについて国がプライバシー関連について1人部屋を推奨しているところにある。8～10畳に2人、ということはある。最近では、3割は道も多床室を良しとしたところ。多床室は人件費の問題を加味すると良いのでは、との意見も聞く。
- (委員) 要介護が重たくなるとはならないか。国からの通知があったのでは。
- (事務局) 国から正式通知はない。要介護2でも入所できる方向にて検討中。
- (事務局) 障がいと高齢者とは確かに似たサービスがある。横の繋がりを持たせることが重要であるが、各部会では具体的に降りてこない。それぞれに出席して関係と繋がりを持たせていくよう努めたい。障がい児でも、大事なことは障がいがあってもなくても一人の「子ども」なんです。この一致が前提となって生涯に渡って、その子の特徴のフォルダを行く先々で作っていくべき。障がい児支援ではどんなものがあるか。保育分野では。
- (委員) 保育で病後児保育があるのは今のところ南保育園だけ。
- (委員) 策定スケジュールについて、数値目標の設定については議論してからではないか。
- (事務局) 北海道からの数値目標が6月より遅くなる予定ではあるので、課題から整理したほうが良いと考えている。
- (座長) 意見交換会についてだが、前回の障がい者計画では参加者が少なかったところもあるの

で、集客の工夫もお願いしたい。多くの方が参加して議論できる場として検討してほしい。

(委員) パブリックコメントに関しても、周知方法を工夫してほしい。

(事務局) 意見交換会、パブリックコメントの周知方法については事務局で検討する。

(事務局) 昨年、障がい者計画にてアンケートを実施しているので、今回アンケートは考えていない。障がい者団体などに意見交換会を実施し、その取扱いも含めて検討していきたい。

(委員) 実際参加しても、何を聞いていいのかわからないということもあるので、意見募集の形も考えてほしい。

5 その他

次回部会日程については7月上旬を予定。近くなったら、案内します。

了